


☆公害による健康被害を許すな!
 ☆自然環境・生活環境の破壊を許すな!



ヤマシャクヤク

大阪から公害をなくす会 ニュース

大阪から公害をなくす会
 〒540-0026 大阪府中央区内本町2-1-19
 内本町松屋ビル10 370号
 TEL 06-6949-8120/FAX 06-6949-8121
 E-mail : oskougai@coast.ocn.ne.jp
 URL http://oskougai.com/
 発行責任者 金谷 邦夫
 年間購読料一部2,000円(送料共)

「泉南石綿の碑」を建立 泉南アスベスト国賠訴訟勝訴・解決と 石綿被害の根絶を願い

2015年4月19日、泉南アスベスト裁判の勝利和解を機に、かつて石綿紡織工場が集中した泉南市信達牧野しんだちまきのに記念碑を建立し、除幕式が行われました。小雨降る中約170人の関係者、マスコミが参集し、互いに長い闘いの労をねぎらい、ここに眠る人々への想いを馳せました。当日、挨拶された「泉南地域の石綿被害と市民の会」代表の柚岡一禎ゆおかさんの発言要旨をお伝えします。



挨拶をする柚岡一禎代表

泉南石綿被害問題は、尼崎の石綿被害が発覚した直後から活動を開始しました。この夏で10年目を迎えます。この地の石綿産業の調査と被害の掘り起こしを、地元の皆さんとともにやってきました。

当初から、いつか活動を終える時がくれば、記念になる物を残したいと思っていましたが、実際にこのように立派な石碑が建つ日が来るとは思いませんでした。長い裁判の闘いの中では、困難な時期がありました。原告や支援者の間に動揺が生じたこともありましたが、しかし、皆さんで励まし合い、力を合わせて活動し、今日の日を迎えることができました。感無量です。

石碑の前の道は、平安時代には熊野詣の人々が行きかかった道です。近年に

なつて紀州街道と呼ばれ、紀州の殿様が参勤交代で往来しました。この地に、明治の終わりに、突如として石綿紡織産業が起り、街道沿いに工場が林立しました。戦前から戦後30年代にかけて、この地は「いしわた村」と呼ばれていました。(石綿紡織業の主力はその後、隣の阪南市へシフトした)。

碑の周辺にも多くの工場がありました。隣には原綿から布まで作る一貫工場、向かいに織布工場と自動車のプレーキ部品工場、さらに3軒向こうに一貫工場という風に、まさしくこの地は「いしわた村」の名にふさわしい場所です。

当然のように被害が出ました。これが、マスコミ報道などで知らされました。すぐ近くで開業医をしていた梶本政治さんは、被害者の多さと深刻な実態に、警告を発し続けましたが、当時耳を傾けるものは少なく、被害は発生し続けました。今日、ここにいる原告の皆さん、遺族の皆さんは、そのごく一部です。ほとんどが、原因がわからず訴えるすべも知らないまま、死んで行きました。

ご覧のように碑には「泉南石綿の碑」とだけ刻まれています。「慰霊」や「怒り」や「悲しみ」などの文字はなく、無思想で、そっけない碑文ですが、実は、怒りや悲しみだけで表せない、この地

大阪から公害をなくす会
第36回 総会開催のご案内

日時 **6月11日(木)**
 午後6時30分～(6時開場)

場所 **大阪民医連 会議室**
 地下鉄「堺筋本町駅」下車⑨出口から
 北へ徒歩3分、創建本町ビル 2階



「泉南石綿の碑」とだけ刻まれた石碑の横に立つ金谷邦夫なくす会会長

の複雑な事情をこの6文字に込めたつもりです。

先年肺がん石綿肺で亡くなった前川清さんの言葉を覚えています。

「石綿はおれの体をめちゃめちゃに壊した。しかし石綿の仕事があったおかげで、一家が生きていけたし、子供を学校に行かせることが出来た」と。

憎むべき『悪魔のような石綿』ではありませんが、それだけではない『泉南の石綿』です。この地に生れ、この地で事業を興し、石綿に関わって生活し、この地で死んでいった私たちの父母、兄弟、共に働いた者たちへの思いと、私たち住民の複雑な感情を、この碑文から汲み取っていただければ幸いです。